

2 0 2 1 年 度

事 業 計 画 書

学 校 法 人 北 陸 大 学

# 事業の概要

---

## 1. 建学の精神・教育理念、使命・目的、教育方針（三つのポリシー）等について

### ◇建学の精神・教育理念

「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」

### ◇使命・目的

「健康社会の実現」

### ◇教育方針（三つのポリシー）

#### ■卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

本学は、「自然を愛し、生命を尊び、真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

#### 〈知識・技能〉

- (1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- (2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

#### 〈思考力・判断力・表現力〉

- (3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。
- (4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

#### 〈主体性・多様性・協働性〉

- (5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。
- (6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

#### ■教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

#### 〈教育課程編成〉

本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる一般教育科目、専門分野を体系的に学ぶ専門教育科目、その他必要

となる科目を設置し、順次性のある体系的な教育課程を編成する。授業は、双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を適切に組み合わせて行う。なお、上級年次で展開する専門分野の知識・技能などを学ぶために、初年次では、設定した目標に向かって、主体的に行動できる習慣と自己管理能力を身につけられる教育を行う。学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。

#### 〈学修方法〉

- (1) 全科目で、主体的・対話的で深い学びが実現されるように、能動的学修を取り入れる。
- (2) 現実社会で活用できる知識・技能を修得し、社会の一員としての役割を自覚するために、地域・社会・海外等において、教室外学修プログラムを提供する。
- (3) 主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進する。

#### 〈学修成果の評価〉

- (1) 授業科目のシラバスに評価基準を具体的かつ多面的に明示し、学生の成長を促進するための厳格な成績評価を行う。
- (2) ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、学修到達度調査や卒業論文、卒業研究の成果物等によって評価する。

### ■入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー：AP）

本学では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を総合的に身につけている学生の育成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行う。

- (1) 専攻する学位プログラムの教育内容が理解できるように必要な基礎学力を身につけている人
- (2) 自らの考えを順序立てて伝えることができる人
- (3) 多様な文化・価値観を持つ人々に対して理解と共感を示し、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲のある人

## 2. 長期ビジョン（第2期中期計画）及び事業計画について

北陸大学は、地域・社会に求められる大学であり続けるために、創立50周年に向けて、長期ビジョン「北陸大学 Vision50 (by2025)」(2017年3月22日)として「2025年までに学生の成長力No.1の教育を実践する大学となる。」を掲げています。この実現に向けて、第1期中期計画(2017～2020年度)では、全学的に取り組むべき重要目標達成指標(KGI)として、入学者確保、退学防止、就職率向上の3つを設定、KGIを達成

するために7つの重点項目と重要業績評価指標（KPI）を設定して各種施策を推進して参りました。第1期中期計画を引き継ぐ第2期中期計画（2021～2025年度）では、2025年までに長期ビジョンを達成するために、第1期中期計画の課題や問題点を精査した上で、新たにKGI、重点項目、KPI、行動目標、行動計画を設定しています。

2021年度は、第2期中期計画の開始初年度となり、以下の3つの戦略に基づく7つの重点項目について、大学改革を実行します。

### ◇3つの戦略

- 学生の成長を実現する特色ある教育・研究の実践
- 変化への対応と新たな魅力の創出による組織改革
- 持続的成長を実現する経営基盤の強化

### ◇第2期中期計画（2021年度～2025年度）

重点項目	基本方針	行動目標
(1)教育改革	学修者本位の教育への質的転換を目指し、教学マネジメント体制並びに内部質保証システムの更なる充実を図る。 また、多様な教育体制の構築と地域社会との連携に取り組む。	①学修者本位の教育の実現及び質保証体制の構築 ②多様な教育体制と社会との連携
(2)学生支援	多様な背景を持った学生一人一人が、充実した学生生活を送ることができるよう支援を行うとともに、自らの未来を切り開く力を備え社会で活躍できる人材を育成するための環境整備を行う。	①多様な学生の成長を促すサポート体制の整備 ②キャリア支援の強化
(3)研究活動	健康社会の実現のため、総合大学としての多様性を活かし、特色ある研究や地域の課題解決など社会ニーズに応える研究を推進する。研究の高度化を図り、質の高い研究成果を教育に還元し、社会実装に取り組み、地域社会の発展に寄与する。	①研究基盤の充実 ②社会に貢献できる研究の推進
(4)国際化	「Global Eyes ー金沢に学び世界にかけろー」の教育スローガンの下、基礎学力、豊かな教養、優れた語学力、的確な判断力を持ち、地域並びに世界の発展に貢献できるグローバル人材を養成する。	①学生と教職員が共に国際的な価値観を身につけるための環境整備
(5)社会連携・ネットワーク強化	医療、国際、経済経営の分野で質の高い特色ある教育・研究を行い、その成果を社会に還元し、地域と産業の活性化に寄与するとともに、地域社会に貢献できる人材育成を目指し社会連携活動の強化に取り組む。また、保護者に対する情報提供、要望・相談の受入れ体制、同窓会との連携及び卒業生に対する情報提供・支援の充実を図り、ステークホルダーとのネットワーク強化を推進する。	①社会連携活動の強化 ②保護者・卒業生（同窓生）及び企業等との連携 ③生涯教育・社会人教育の推進
(6)入学者確保・広報・ブランディング	デジタルメディア等を活用した広報を促進し、受験者及び保護者等との接触機会を増やすことで志願者の増加、入学者の確保を図る。併せて大学ブランドの構築を図る。	①学生募集活動の強化 ②大学ブランディング強化
(7)経営基盤強化	持続的成長を実現する経営基盤強化のため、社会及び外部環境の厳しい時代の変化に対応して健全で安定した財務基盤を構築維持するとともに、将来構想の推進をサポートできる財務体制を構築する。第2期中期計画実現のため、財務、組織、人事、ガバナンス等の経営基盤の強化を進める。	①財務基盤強化 ②組織・人事・制度の全体最適化 ③キャンパス等の活用整備

## ◇2021 年度事業計画

第2期中期計画の行動目標に関し、2021年度事業計画（骨子）を策定し、目標を達成すべく、具体的な取組みを次のとおり行います。

### (1) 教育改革

#### ①学修者本位の教育の実現及び質保証体制の構築（全学）

学修者本位の教育を実現し質の向上を図るため、2021年度FD・SD活動方針に則り、全学及び各学部において研修会を実施する。加えて、初年次教育の検証・充実や初年次教育と連動した体系的な専門基礎教育モデルの構築、ICTを活用した教育プログラムを構築するとともに、アクティブ・ラーニング型授業への転換を促進する。

各学部・学科の教育ポリシーに基づき策定された学位プログラムを通じて、学修成果を具体的に把握・可視化できる仕組みを構築し、学修成果・教育成果を公表する。また、IR運営委員会において各種分析を行い、その結果をFD活動等に反映させるとともに、カリキュラムの適正化による教育の質向上を図る。

#### ②多様な教育体制と社会との連携（全学）

複雑かつ高度化する社会問題や課題に対応できる力を育成するための分野・学部等横断型カリキュラムの導入やAI・データサイエンス教育の導入について検討を行い、方向性を決定する。また、複眼的視点で全体像を捉える力を育成するための主専攻・副専攻制度の導入を検討するとともに、先行事例調査や分析を行う。

幅広い教養を身につけ、学修の幅を広げることを目的として、地域社会や海外等における教室外学修プログラムを充実させるとともに、教育活動の充実及び教育効果の向上を目的に、学事暦及び授業時間割の再構築について検討をはじめめる。

#### ③卒業時までには修得されるべき「薬剤師として求められる基本的な資質」を前提とした学習成果基盤型教育（Outcome-based Education）の実践及び初年次教育の充実による留年・中途退学の防止（薬学部）

「薬剤師として求められる基本的な資質」を備えた人材を育成するために順次性のある教育体制を整備し、実践する。初年次教育の充実により、「生徒から、自ら学ぶ薬学生へ」の意識の変容を図ると共に、医療人としての意識を醸成する。3年次は薬学演習Ⅰ、4年次は総合演習Ⅳ及び実務事前学習を通じて学修成果を確認し、実務実習を行う上で必要となる知識・技能・態度を修得する。5年次では4年次までの臨床準備教育で得た知識・技能・態度を実務実習や卒業研究で醸成するとともに、共用試験後の学力の維持向上と次年度の薬剤師国家試験に向け、実力試験を通じ、自身の立ち位置を理解させる。6年次では「総合薬学演習」で、領域別に演習講義を計画的に実施し、かつ実力試験等で学力到達度を確認することにより、薬剤師として必要な知識・技能・態度を修得する。

各系教員単位の意見交換及び各系主任教員間で協議する場を、薬学教育研究センターがコーディネートし、導入3年目となる新カリキュラムについて、退学・留年防止の観点も踏まえた検証を行う。また、薬学準備教育を充実させ、1・2年次での留

年を防止する。2021年度薬学部入学生からPC必携となることに伴い、ICTを活用した教育手法を授業に取り入れることを促進すると共に、学生が反復学習をできる体制を整える。

④臨床検査学・臨床工学の両方の知識・技能・態度を修得できる教育の推進及び社会のニーズに適合した新しいカリキュラムの導入準備、並びに初年次教育の充実による留年・中途退学の防止（医療保健学部）

臨床検査学・臨床工学の両学問領域の専門性を高める基礎知識を低学年から段階的に学修し、さらに、医療技術の理論と実際を学ぶ専門科目を配置した上で、講義と演習、実験・実習を一体化した形で学修させ、また、ICT教育を効果的に取り入れることにより、知識と技能の定着の促進を図る。1年次では徹底した補習教育とSA制度を活用することにより基礎学力を固める。3年次から国家試験、ME技術者試験対策及びOSCEの実施、4年次からの臨地実習・臨床実習、卒業研究の他、演習講義を計画的に実施し、実力試験等で学力到達度を適宜確認することにより、臨床検査技師、臨床工学技士として必要な知識・技能・態度を修得する。臨地実習・臨床実習の円滑な実施に向け、事前・事後研修会の開催、巡回指導を行う。

また、完成年度を迎え、これまでの学修成果・教育成果の把握・可視化を行い、教育改善を進め、留年・退学防止に向けた対策を実行すると共に新カリキュラム導入に向けた検討・準備を行う。

⑤簿記会計・情報（IT）等の基本知識の修得（資格取得）、社会の課題解決に取り組む実践的教育及び地域社会と連動した教室外学修プログラムの推進（経済経営学部）

簿記会計・情報（IT）等に関する基本知識の修得や、関連資格取得に向けた授業科目の充実及びデータサイエンス教育に関する授業科目の質向上や関連性を高めるとともに、教室外学修を促進する環境等を整備する。

地域マネジメント科目やゼミ活動を通じて、社会の課題解決に取り組む実践的教育を推進するとともに、地域と連携した取組の拡大やプログラムを推進するための方法等について検討し、実施していく。加えて、資格取得状況や教室外学修プログラムの実施状況等に基づき、カリキュラムの検証を開始する。

⑥実践的語学力を養う教育及び地域・国際社会との連携した課題解決学習・フィールドワークの推進、並びに心理社会学科の初年次教育の充実（国際コミュニケーション学部）

国際コミュニケーション学科では1年次に英語・中国語の両言語を集中的に学び、中国（夏季）・アメリカ（春季）での海外研修を通じて、異文化理解及び語学力の基礎を固めるとともに、2年次以降の各種海外研修・留学プログラムへの参加意欲向上を図る。各種プログラム等については、常に内容の検証・改善に取り組み、外部団体等との連携を強化し、地域・国際社会の課題解決学修・フィールドワーク等の充実を図る。

心理社会学科においては、新たに新入生を迎えるにあたり、全学的な教育編成・実施の方針に基づき、初年次教育を順次的・体系的に行うとともに、特に1年次演習科

目（心理学基礎演習）において、心理学分野における研究法、データ解析・分析法の基礎を学び、2年次以降の展開科目への基盤を固める。また、2022年度以降に実施予定の海外研修プログラムの実施計画を策定するとともに、学生の参加意識の醸成を図る。

## (2) 学生支援

### ①多様な学生の成長を促すサポート体制の整備（全学）

学生の主体的な活動を支えるため学修・生活環境の支援を行う。特に多様な学生（障害、性、留学生）に対する支援体制の強化を図る。また、大学での学修をささえる図書館の利用促進を図るため、図書館利用実態調査の実施等、利用状況及び利用目的等の検証を行う。

課外活動においては、強化指定クラブを始め、公認クラブ等の支援のための環境整備を行う。特に、公認クラブ等の設立制度の見直し、本学における課外活動の中心的な存在となる学友会・学園祭実行委員会の組織等の強化、活動の充実を図る。また、学部・学科を超えて学生や教職員が参加できるプロジェクト立ち上げに向けたワーキンググループの設置を行う。

### ②キャリア支援の強化（薬学部）

本格的な就職活動が始まる前の4年次時点から、就職ガイダンスや対策講座を行う。特に2021年度は急速に進む就職活動のオンライン化に対応した内容を盛り込むこととし、キャリアに対する早期意識付けと対策を行う。5・6年次生に対しては、学内合同企業説明会を実施し、企業・病院等とのマッチングの場を提供する。

また、進路支援委員会と薬学学務課が共同で、卒業生の就職先等に意見聴取を行い、企業や病院等から求められる人材像や採用動向の把握に努め、学生のみならず、薬学部教員にも積極的に情報を発信することにより、学部全体で学生に対する進路指導ができる体制を構築する。

### ③キャリア支援の強化（国際コミュニケーション学部・経済経営学部・医療保健学部）

新型コロナウイルス感染拡大の影響を踏まえ、対面方式からオンライン方式への対応に加え、オンラインでの進路相談、ES添削、オンライン模擬面接等の強化に取り組む。3年次前期からインターンシップを経験することで、早期に職業理解が深まる。3年次後期からは本格的な各種就職ガイダンスに加え、学内合同企業説明会を行い進路支援委員会と進路支援課が共同で企業・病院等が、求める人物像や採用動向の把握に努める。

また、留学生の就職指導については、両学部の進路委員会及び教務委員会が連携し、外国人留学生のキャリア教育プログラムの構築と実施準備に努め、中期計画にある進学率を達成するために、大学院進学支援年間行事を教職連携で構築する。

## (3) 研究活動

### ①研究基盤の充実（全学）

教員の研究活動を支援する体制を整備し、特色ある研究を推進して研究力を強化する。研究力の向上により、教育の質の向上を実現する。研究資金において、競争的資金（科研費）の採択率向上、外部研究資金の獲得金額向上に向けた学内研修及び支援体制の充実を図る。また、学内公募型の研究助成制度、研究活動及び外部資金獲得状況等を考慮した個人研究費制度の再構築により、選択と集中による研究費の配分を検討する。

研究環境においては、大型研究装置の整備に関わる年次計画を見直す一方、学術資料・データベース等の利用促進、学内の研究機器・設備・施設の共同利用の促進、及び外部委託を含めた外部機関との研究機器等の共同利用等の連携体制を検討する。また、自主研究（研究日）、学外（海外を含む）研究制度等の運用を開始する。

## ②社会に貢献できる研究の推進（全学）

「健康社会の実現」のため、特色ある研究、地域社会の課題解決に資する研究を推進する。学内の研究シーズを把握するとともに、健康長寿総合研究グループや学内研究助成に採択された連携研究を推進し、その成果が社会実装や地域社会の発展につながるよう支援する。

研究成果を広く社会に還元するために、紀要への投稿を一層促すとともに、機関リポジトリの内容を充実させる。さらに、本学ホームページの研究テーマの更新、研究関連ニュースの掲載等を通じて情報発信を強化する。

## (4) 国際化

### ①学生と教職員が共に国際的な価値観を身につけるための環境整備（全学）

海外研修・留学プログラムの見直し・改善・新規プログラムの開発などの拡充を図り、学生が積極的に参加できるプログラムを構築する。また、今後の学生間・教職員間の交流が期待できる海外協定校の新規開拓を始め、海外協定校の教職員との交流促進、海外インターンシップの拡充、留学生受入促進に向けた環境の整備、外国人教員の積極的な採用を通して国際的な価値観を身につけるための環境を整備する。

2021年度は新型コロナウイルスの影響が引き続き予想されることから、オンラインによる留学生募集や留学プログラムなど状況に応じて対応する。

## (5) 社会連携・ネットワーク強化

### ①社会連携活動の強化（全学）

これまでの産学官・地域連携の諸活動及び自治体等との連携推進会議等での結果を総括し、現状把握及び新たな連携事業の検討等さらなる連携強化を図る。「北陸大学産学官・地域連携ポリシー」に基づき、学生ボランティアの推進、地域課題に取り組む学生及び教員のサポート体制の整備・活動の推進、及び金沢市近郊私大等プラットフォーム加盟校との各種事業を実施し、地域と産業の活性化に寄与する。

### ②保護者・卒業生（同窓生）及び企業等との連携（全学）

北陸大学の教育活動等への理解を高めるため、ステークホルダーである保護者・卒業生（同窓生）への情報提供の充実及び連携活動の推進によりネットワークの強

化を図る。特に卒業生については、在籍する企業も含めて、交流・協働作業を行い、大学及び在学生への支援につながるよう、地域企業との関係を強化する。

### ③生涯教育・社会人教育の推進（全学）

孔子学院講座、地域連携センター主催の市民講座等本学の特色を生かしつつ、職能団体、大学コンソーシアム石川及び金沢市近郊私大等プラットフォーム加盟校とも連携した公開講座、講演会、社会人向けプログラムの充実を図り、本学における教育・研究の成果を地域社会に還元する。

## (6) 入学者確保・広報・ブランディング

### ①学生募集活動の強化（全学）

新型コロナウイルスの影響を踏まえ、オンライン型イベント活動の改善、継続に加え、今後を見据えた新たな手法による募集活動に取り組む。更に、富山県、福井県を重点エリアと位置づけての募集強化、心理社会学科（2021年度新設）広報の継続、理学療法学科（仮称：2023年度新設予定）広報を早期開始することで、志願者増加に努める。

### ②大学ブランディング強化（全学）

「学生の成長力 No.1」に向けた教育、学生・進路支援、研究、社会連携、国際交流等諸活動とその成果に関する情報を集約の上、使命・目的に基づく本学固有の価値として再定義し、全学的に一貫した広報活動を継続して実施することにより、大学ブランドの構築、在学生・教職員のモチベーション向上、地域社会・就職先企業等の認知度向上を図る。これに向け、2021年度は、本学ミッションステートメント及びブランディング重点項目について検討を開始するとともに、学生募集活動の強化と連動した大学広報の改善実施、及び在学生・教職員、同窓会・卒業生の帰属意識の向上に向けた発信情報の最適化に取り組む。

## (7) 経営基盤強化

### ①財務基盤強化

大学の永続的な発展と将来構想の実現に向け、「中長期財務計画」に基づき、経常収支差額を改善し、健全な財務基盤の確立を目指す。収入面では、入学者の確保、退学に繋がる留年率を改善し、安定的な学納金収入を見込むとともに、戦略的な補助金申請・採択強化、恒常的な寄付金獲得による財源の多様化を図る。支出面では、将来構想に基づいた中長期人事計画を策定し、計画的かつ適正な人員配置による人件費の運用を行う。経常経費については、予算執行の厳格な管理、費用対効果の検証等による経費削減を促進する。

### ②組織・人事・制度の全体最適化

経営ガバナンス体制の強化、内部質保証システムを確立するとともに教職員が意欲とやりがいを持って業務が遂行できるよう、スマートワーク推進、ワークライフバランスの実現等の働き方改革、ダイバーシティ促進を含めた新たな人事制度の構

築を図る。また、組織・業務のスクラップ・アンド・ビルド及び業務のデジタル化等による組織・業務の全体最適化を推進する。

③キャンパス等の活用整備

2023年度医療保健学部理学療法学科（仮称）開設に伴う施設整備に着手する。既存の施設は有効活用・改修等を基本とし、施設・設備・ICT環境の整備計画に基づき、次世代の教育に対応する学修環境・情報環境及び課外活動や学生生活の充実に向け必要な環境整備に取り組む。学部改組に伴う将来構想を踏まえた新たなキャンパスマスタープランの基本計画を策定する。

④社会ニーズに適応した教育組織の将来構想の策定

北陸地域の社会ニーズに適応した新しい教育体制の再構築に向け、2022年度に4学部の入学定員再設定を行うとともに、2023年度に医療保健学部理学療法学科（仮称）開設に向け、文部科学省及び関係省庁と調整を図り申請業務を遂行する。さらに本学の発展を目的として、教育組織の充実に向けた方策を提案する。